

第6学年 授業改善推進プラン

1組 25 2組 25

1. 昨年度 授業改善推進プランについての検証

国語科	「書くって楽しいね」や「作文」を計画的に行ったことで、文章の構成を考えて書く力がついた。叙述内容に即して読むこと、登場人物の心情や、情景描写に注目して読むこと、声に出して読むことを指導したことで読み取る力がついた。
社会科	複数の資料から情報を読み取り、自分の考えをまとめる指導を継続してきたことで力がついてきた。調べたことを友達に発表する場面を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりしていく必要がある。
算数科	知識・技能の習得では、児童によって差が大きいことが継続した課題である。まずは、計算や作図などの技能の習得を目指し、計算ドリルを計画的に取り組みせ、算数ステップ学習や算数クラブを活用して個別指導していく必要がある。
理科	予想や考察の場面で、既習事項や生活体験をもとに自分の考えを深める児童が増えてきた。さらに、思考力・判断力・表現力の向上を図るために対話の時間を確保し、児童同士で話し合い問題を解決していく必要がある。
体育科	運動に対して意欲的に取り組むことができている。校内では持久力に力を入れているので毎時間自分のペースで走る時間をつくり持久力を高めていく。運動と水分補給の切り替えを早くすることで活動時間を確保する。
音楽科	歌唱は全体的には生き生きとした声で歌うことができる。器楽では、合奏では色々な楽器で音を合わせることに興味を持って活動している。リコーダーでは運指にとまどう児童がみられる。
図画工作科	大変意欲的に活動に取り組んでいる。おおむねの児童が豊かに発想しているが、発想や構想の面で課題のある児童もいる。
家庭科	調理実習やソーイングでは、自分で考えてオリジナルのものを作ることができた。技能面に個人差はあるが、友達と協力したり、担任と一緒に作業したりすることにより自信につながった。

2. 学力に関する調査結果の総括（大田区学習効果測定の結果に対する考察） ※全体の傾向

国語科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆「作文」では指定された長さや構成にそって書く力が付いている。 ☆「物語や説明文の内容を読み取る」では、文章の内容を的確にとらえて読むことができている。 ☆「漢字を読む・書く」では、第5学年までの配当漢字を使うことができている。 ・「話し合いの内容を聞き取る」では、自分の立場や意図をはっきりさせながら、自分の考えを話し言葉で記述することや修正することに課題がある。
社会科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆「日本の農業」では、資料から米の生産量や食料自給率を読み取る力が付いている。 ☆「わたしたちの生活と環境」では、森林の働きについての理解が高い。 ・「自動車をつくる工業」では、自動車の製作工程の理解に課題がある。
算数科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆「図形の角」では、三角形の内角や四角形の内角の和の理解が高い。 ☆「整数の仲間分け」では、倍数についての理解がある。 ・「数と計算」では、小数第二位×小数第一位の計算に課題がある。
理科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆「天気と変化」では、気象衛星の画像から各地点の天気を予想したり読み取ったりすることができている。 ☆「魚のたんじょう」では、メダカの卵の発生順序や受精について理解できている。 ・「流れる水のはたらき」では、川の写真から、川の流れている場所を指摘したり、複数の人の考えのうち、正しくないものを指摘する問題に課題がある。

3. 平成30年度 授業改善推進プラン

国語科

関心・意欲・態度	課題	自分の考えや感想を書くことに慣れてきているが到達度に個人差がある。
	重点	「書くって楽しいね」の指導を計画的に行い、書き出すことが難しい児童には個別指導をする。
話すこと 聞くこと	課題	話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的や意図に応じて話し方や場に応じた適切な言葉遣いや必要なキーワードを使って話す力が十分に定着していない児童がいる。
	重点	まず自分の考えを主体的にもつことができるよう時間を確保し、十分でない児童には個別に指導を重ねる。次に、自分の考えを基に、友達と交流することで対話的な学習になるよう授業改善を図る。
書くこと	課題	道筋の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて書く力はついてきているが個人差がある。
	重点	文章全体の構成を考え、自分の考えが明確になるように、事実と感想・意見などを区別して文章を構成する力をさらに伸ばす。そのために、自分が書いた文章は必ず読み返すようにさせ、間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする習慣をつけることができるように指導する。書き出しが難しい児童にはその都度一緒に考える。
読むこと	課題	登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに読み取る力はついてきているが個人差がある。
	重点	叙述内容に即して読むこと、登場人物の心情や、情景描写に注目して読むこと、声に出して読むことを発達段階をふまえて重点的に指導することを継続的に行う。
言語に関する 知識・理解	課題	漢字の読み書きの正答率が高いが、漢字の定着にも個人差がある。
	重点	既習の漢字や言葉を日常の学習場面で使おうとしない児童がいるため、日常的に使用できるような指導を継続し、高い定着度を維持できるようにする

社会科

関心・意欲・態度	課題	日本の歴史に興味はもっているが、自分からすすんで調べたり、話し合おうとすることに意欲をもてていない児童がいる。
	重点	自分のこととして課題に取り組めるよう、資料の提示方法や発問を工夫し、自分の考えをもてるまで指導するようにする。特に、調べ方が分からない児童には個別に指導する。
社会的な 思考・判断	課題	身に付いた知識や資料から読み取ったことなどを、自分の言葉で表現することに課題がある。
	重点	複数の資料を関連付けて読み取り、自分の意見をもたせる。さらに、友達と自分の意見を交換する場面を繰り返し計画的に設定することで、自分の考えを深めさせるようにする。
資料活用 の技能	課題	複数のグラフや写真などの資料から事象を読み取る力がついてきているが個人差がある。
	重点	地図や年表、グラフ、写真などの意味や価値について説明を行う。複数の資料をどのように読み取るかを指導する時間を確保し、自分なりの視点をもって調べることができるようにする。読み取ったことを活用する場面を設定することで、社会的事象を多面的に明らかにできるようにする。
社会事象 の理解	課題	用語や固有名詞についての理解が不十分な児童がいる。
	重点	年表や統計資料などによる体験・作業活動を多く取り入れ、用語や固有名詞を覚える活動だけでなく調べることによって定着することができるような指導をする。また、調べたことを活用したり発表したりする場面を設定し、理解の定着を図る。

算数科

関心・意欲・態度	課題	内容は理解しているものの、発表することに消極的な児童が多く思考力・表現力、知識・技能の活用に課題がある。
	重点	学習に操作的活動を設けるなど、具体的に考える活動を通して基礎・基本を定着させる。ペアやグループでの教え合いの機会を設け、自信をもって説明できるように助言し励ましていく。
算数的な思考・判断	課題	文章題の内容を理解し、立式することが難しい児童がいる。式や文章の意味を数直線や図を使って説明する力が十分に身に付いていない児童がいる。
	重点	文章題から数直線、面積や図などに表す活動を継続し、基準量と比較量を意識させる。根拠をもって立式を行い、考える習慣を身に付けさせる。友達に説明をしたり、友達の説明を聞いたりする時間を確保する。
算数的な技能	課題	計算処理や作図の技能は少しずつ身に付いているが、コンパスや定規を使って丁寧に作図することに課題がある児童がいる。
	重点	定着するのに時間を要する児童には、練習量を確保しながら内容を厳選し、確実にできるようにする。計算ドリルを計画的に行うことができるよう進捗状況を把握し、個別指導する。ステップ学習や算数クラブも活用し、計画的に補習を行う。
知識・理解	課題	問題と式、式と図、計算の処理と意味、公式と意味などを関連させて理解できていない児童がいる。
	重点	言葉、数、式、図、数直線が表すことと具体物とを関連付けて指導し、学習の基礎・基本の定着を図る。可能な内容であれば具体物を作成して確かめ、量感を意識させる場面を、授業の中で意図的に取り入れる。

理科

関心・意欲・態度	課題	日常生活で自然との関わりが少ないため、B区分（生命・地球）の知識理解が低い傾向にある。
	重点	校庭や地域の自然環境を生かして、具体的な観察を通した学習活動を進める。実際に自分の目で確かめることができるように、少人数での観察・実験の機会を多く設ける。観察の視点を与え、実感を伴った理解を図ることができるように指導する。
科学的な思考・表現	課題	量的変化や質的变化について予想したり考察したりする時、理科学語を使って表現することに課題がある。
	重点	予想や考察の場面では、自分の考えと友達の考えを互いに伝え合う対話の時間を確保する。また、B区分「生命・地球」分野については、自分の考えを発表したり、質問に答えたりするようにするような説明活動を取り入れることで、自らの思考力・判断力・表現力を育むようにする。
科学的な技能	課題	実験結果のまとめ方（表に整理する・数値化する）、観察の技能（何を見るかという視点をもつ）に課題がある。
	重点	問題解決に適した方法を工夫し、過程や結果を的確に記録する。
知識・理解	課題	特にB区分「生命・地球」の単元では、知識や理科学語の定着に課題のある児童がいる。
	重点	観察できない単元はICTを効果的に活用する。内容の理解をした確認した後、学んだことを発表したり質問に答えたりする場面を設定する。相手に繰り返し発表したり質問に答えたりする対話的な学習を通して、理科学語の確実な定着を図る。

体育科

関心・意欲・態度	課題	運動に対する意欲は高いが、さらに上達するために自ら取り組もうとする意欲が高くない。
	重点	意欲を引き出すためグループ活動やタブレットの動画機能を取り入れるなどの工夫する。
運動に対する思考・判断	課題	運動の特性を理解し、体の動かし方や練習の方法を考えたり、工夫したりして運動に取り組む力がまだ不足している児童がいる。
	重点	児童の発達段階に応じてスモールステップで順序良く具体的な指導を個別に講じる。
運動における技能	課題	持久力に個人差があるので高めていく。
	重点	授業始めに行っているペース走を継続し、体力の向上を図る。
安全・健康に対する知識・理解	課題	安全や健康についての基本的な知識の理解が不十分な児童がいる。
	重点	できるだけ実生活の中の具体的な場面を例示し自分でも想像させることで、自分事として捉えさえ、知識が定着するようにする。

音楽科

関心・意欲・態度	課題	歌唱でも歌声に気を付けてきれいな声で歌うことができる。ただし中には歌声が消極的になってしまう児童もみられる。
	重点	曲のワンフレーズを取り出した声の響かせ方やことばの言い方などの発声練習を常時取り入れるとともに、卒業式に向けて意欲を高めていく。
表現の創意工夫	課題	曲想にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもって演奏することが十分ではない。
	重点	少人数で歌ったり互いのパートを聴き合う活動を通して、考え合い曲想表現を高めていくようにする。歌詞の内容・旋律の動き・構成などその曲の中で取り上げたい音楽的要素を明確にし、それを手掛かりにふさわしい表現を工夫させていく。
表現の技能	課題	リコーダーは、ほぼすべての音域を使用した楽曲に取り組むことが多いが特にサミングが必要なあたりで指使いが混乱する 때가ある。
	重点	リコーダーでは、曲に必要な運指を中心にした準備練習を行い、円滑に曲の練習に取り組んでいけるようにしていく。実態に即した教材を選択し、技能の段階的なステップアップを図る。運指につまづきがある児童には個別に指導する。
鑑賞の能力	課題	意欲的に楽しく聴き、音楽のよさや美しさ、音楽の諸要素・音色の特徴などをよく聴いて感じ取ることができるが、積極的に発言する児童が限られている。
	重点	音楽を形づくっている要素を把握できるように、聴くときのめあてを明確に掲示したり、ワークシートを作成したりする。またペアや全体など意見交換の場面を工夫する。

図画工作科

造形への 関心・意欲・ 態度	課題	楽しんで造形活動に取り組んでいる児童が多い。継続できるようにする。
	重点	グループでの活動や造形遊びを多く取り入れて、さらに活動への意欲を高めていく。
発想や構想の 能力	課題	発想を豊かに広げられなかったり、思いついたことの表し方がわからない児童もいる。
	重点	作品鑑賞を通して様々な表現に気付かせる。教師や周りの友達との話し合いをもとに、発想・構想できるようにする。
創造的な技能	課題	主題を表すために、工夫して表現することに課題のある児童がいる。個人差が大きい。
	重点	工夫して表現している子の作品や、参考となりそうな資料等を授業で多く取り上げて紹介する。表現の多様性を知り、児童が作品に取り入れていけるようにする。
鑑賞の能力	課題	友人の作品を楽しく見たり、よさに気付いたりして、自分の表現に取り入れることができるが、美しく作品を仕上げることに重点を置く児童が多い。それだけではない表現の多様性やよさに気付かせたい。
	重点	児童の作品や美術作品、暮らしの中の作品などの鑑賞を行い、美しさだけではなく表現の多様性やそのよさに気付くことができるようにする。

家庭科

関心・意欲・態度	課題	クッキングやソーイングに関心のある児童が多い反面、家庭でのお手伝いなど生活経験が少ない児童がいる。
	重点	授業で学んだことを家庭でも継続して実践できるよう、様々な経験を増やすことができるようにする。
日常生活の 思考・判断	課題	日常生活に当てはめて考えたり、自分の生活に生かし工夫しようとしたりする児童がまだ少ない。
	重点	生活体験とつなげて考えられるような場を設定し、具体的な取り組み方を提示する。また、児童の生活で活用・工夫できた例を挙げ、自らの生活に生かせるようにする。
日常生活の 表現・技能	課題	ソーイングでは技能面に個人差がある。
	重点	家庭での生活体験によって技能面に差があるので、友達や担任の支援が必要な児童には個別指導する。
知識・理解	課題	新しい学習内容を理解できる児童が多いが定着しにくい。
	重点	基礎的な知識についてはキーワードで提示したり、実際に実物や写真、動きを見せたりしてイメージさせ理解できるようにする。できるだけ具体的な体験を通して、知識・理解の定着を図ることができるようにする。